【情報ひろば】

海外通信：近年のベルギーにおける日本語教育・学習事情

—非母語話者の活躍の場—

後藤加奈子（リエージュ大学）

1. はじめに

本稿では、EU の本部があり、ヨーロッパの十字路に位置する多言語国家ベルギーにおける日本語教育・学習事情を簡単に紹介するための試みとして、2027 年に創立 30 周年を迎えるベルギー日本語教師会（Belgian Association of Japanese Language Teachers - BNK）とその会員の特徴を紹介する。

2. ベルギー日本語教師会

1997 年にベルギー各地で日本語を教える仲間が集まって発足したベルギー日本語教師会（以下 BNK）。2024 年現在、会員数は 45 人前後で、会員の居住地は主にベルギーであるが、近隣国のフランス、オランダ、ドイツからの会員もおり、フィンランドに住む会員が在籍していたこともある。主な活動として、年に 4～5 回、日本語教育の専門家を招いてセミナーを実施するほか、会員同士の勉強会や、日本語母語話者と学習者が日本語で交流する「話そう会」をオンライン、日本大使館、伊丹市の姉妹都市であるハッセルト市の日本庭園等で開催している。パンデミック到来を境に、活動の一部にオンライン媒体が使われることになったが、対面での教師間のネットワーク構築や日本語教育に関する知識の共有には、オンライン活動の便利さを大いに上回る価値と意義があるというのが、BNK 内での共通認識である。

3. ベルギーで日本語を学んだ非母語話者の活躍

BNK の最も顕著な特徴は、その会員中に占める日本語非母語話者の割合であろう。2024 年現在、会員の一割以上がベルギー出身の日本語教師であり、彼らは蘭語あるいは仏語（時には両方）を母語とし、日本語をベルギーで学んだ人たちである。大半は日本への留学経験があり、日本で通訳や語学の教員として働いた経験を持つ者、BNK 創立当初から運営に積極的に関わってきた者もいる。近隣国の教師会の活動や運営を概観した限り、非母語話者が教師として活躍するばかりか、教師会の会員となり、その活動に積極的に参加するのは珍しいことのようだ。また、BNK のセミナーでは会員からの質問やコメントが溢れるように出てくるのが特徴的であるとの指摘を、過去にセミナー講師としてお越しいただいた方々から受けたことがあるが、そうした発言の先頭を切って行うのはまさに非母語話者の教師た

ちであることも、特筆に値するだろう。

4. 教師会の世代交代という課題に向けて

創立 30 年を目前にして、会員数の停滞や世代交代の難しさが問題となっている BNK であるが、数年前から新しい傾向が生まれている。2022 年 9 月、BNK 創立以来初めて、役員会のメンバーが一新され、3 人の役員の平均年齢は 45 歳となった。新役員会には、2 人の非母語話者と 1 人の母語話者がおり、3 人の母語がそれぞれ蘭語、蘭語・仏語・西語、日本語とまさに多言語国家ベルギーを象徴するようであるばかりでなく、最も効果的な共通言語が日本語であることなども、とても「日本語教師会らしい」趣きとなっている。筆者は、能動的に教師会の運営に関わる経験を通して、母語・非母語話者の垣根を越えて日本語を使って仲間と交流し、共に仕事をすることの喜びを日々体感している。他の 2 人の役員も筆者の考えに同意してくれることをひそかに願いながら、筆を置くこととする。